

大学の授業をデザインする (第2回)

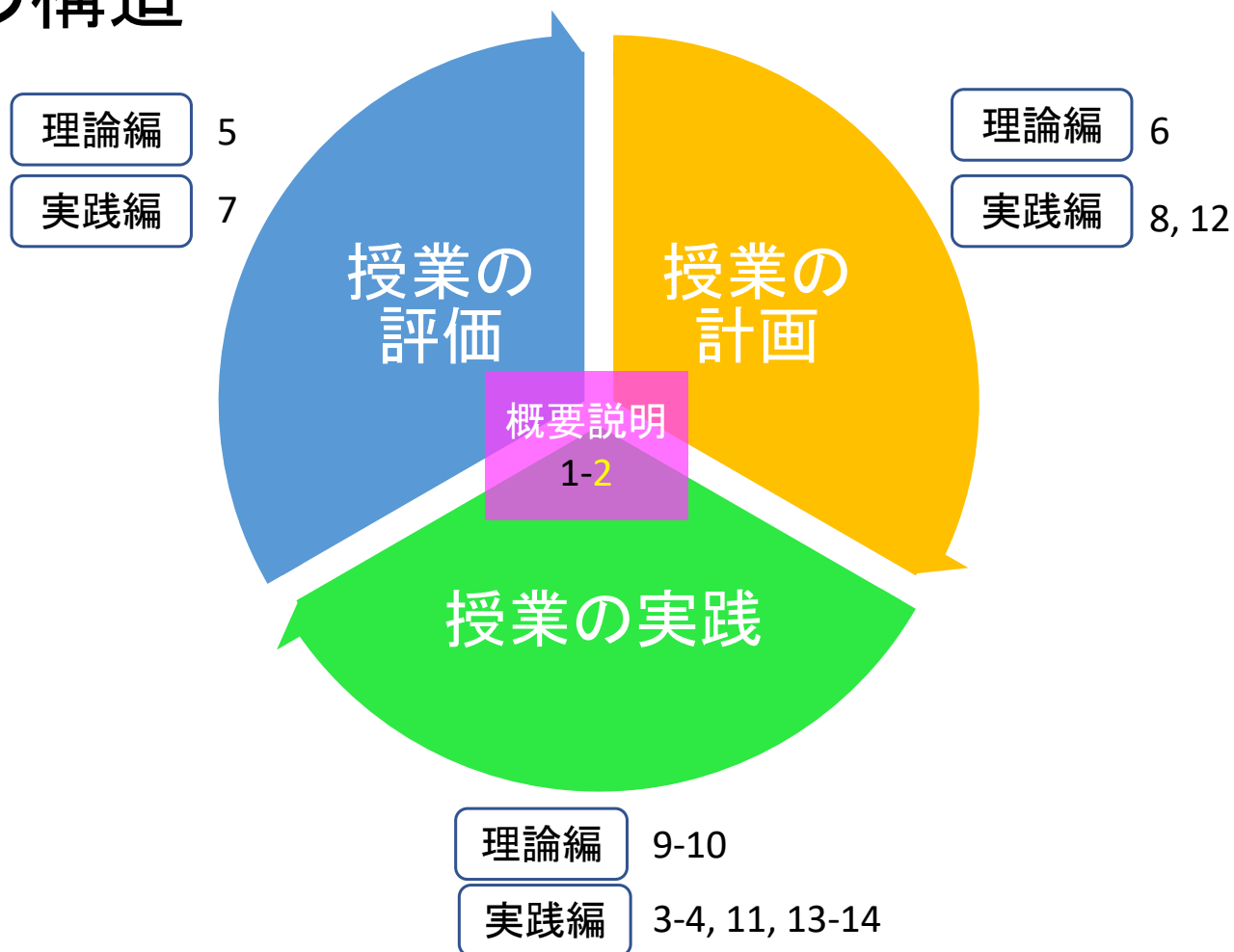
九州大学未来人材育成機構
長沼祥太郎



2. 授業設計（デザイン）とは何か

内容	時間	授業形態	備考
アクティブラーニング について	15分	説明	
良い授業/悪い授業 とは？	15分	演習	
意見交換	15分	ディスカッション	メモシート
「良い授業」が持つ特徴	10分	説明	
逆向き設計論①	10分	説明	
逆向き設計論②	10分	演習	ワークシート
次回の授業について	10分	説明	

この授業の構造



この時間の学習目標

1. 授業設計の重要性を説明できる
2. 逆向き設計論の3つの段階を述べることができるようになる
3. なぜ逆向き設計論が良いかを説明できるようになる

大学教育の質的転換の必要性

- 入口側の問題：
 - かつては大学に入学していなかったような低学力の学生が大学に入学するように
- 出口側の問題：
 - 激動する社会に対応する形で、求められる能力が変化している

教育に関するスキルを学ぶ必要があるのは、

- × 大学教員の教え方が昔より下手になったから
- 大学教育を取り巻く状況の方が変わったから



アクティブラーニング

パフォーマンス評価

が注目されている

*パフォーマンス評価は今日は扱いません。

質的転換のカギ

• アクティブ・ラーニング

- 教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

(質的転換答申「用語集」より)

もう少しわかりやすく

• アクティブラーニング

- 一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。

（溝上，2014）

→動画で実際に見てみよう。

アクティブラーニングへの批判

- 教えられる内容が減少する
 - 活動に時間を取られるため
- 学生が積極的に授業に参加しない
 - フリーライダー
 - グループワークの非活性化
- 活動しているだけで学習になっていない
 - ディープ・アクティブラーニングの必要性

松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター（2015）pp.3-5

なぜ知識伝達の講義「だけ」ではダメなのか？

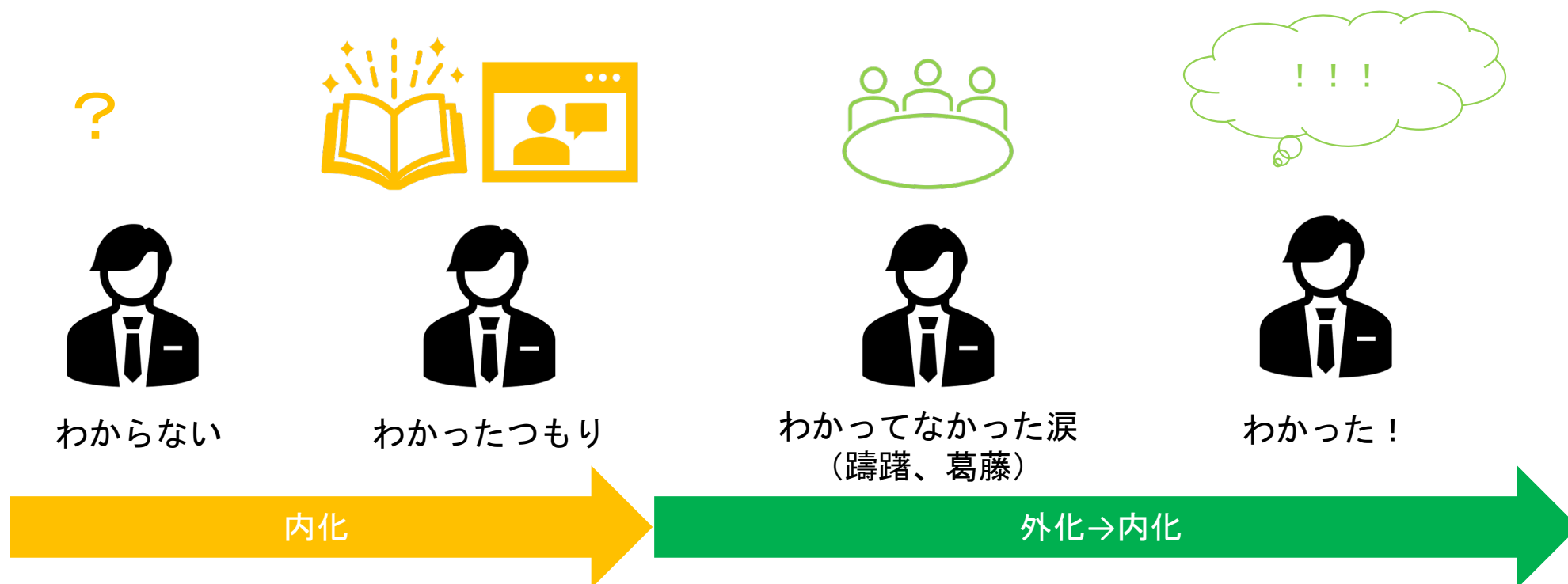
- 大学教員は知識伝達型の授業をしがちだけど
 - もはや教育系YouTuberで全て代替可能？
 - わかりやすい教科書があれば授業は不要？
- 「わかりやすい説明」をするだけの授業(=知識伝達の授業)であれば、他のメディアに置き換えられる時代。
 - 大学に来て、わざわざ高い授業料を払い、教室にじっと座って聞く意味はない。
 - 個人が自由に自分のペースで学べばいい。



↑教育系YouTuberヨビノリたくみさん

「**大学で何を教えるべきか？どう教えるべきか？**」を
改めて考える必要がある。

授業の意義 「わからない」から「わかった！」まで



「わかったつもり」まではオンデマンド教材や参考書・教科書でも十分な場合がある。
しかし、その先は難しく、ここに授業の意義を見出しています。

cf. 森 (2017) p.31

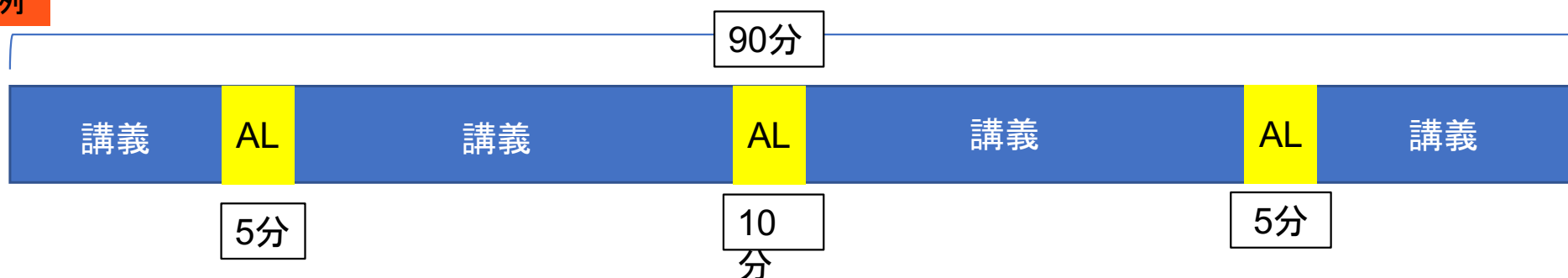
参考：アクティブラーニング「型」授業

- ・ 授業者は、90分の授業内でアクティブラーニングをほんのすこしでも行うことが重要と考えています。

＜理由＞学生の立場に立つと・・・

1. 90分講義だけを聞くのは正直辛い
2. 外化の機会を得ることで自分の状態をより把握しやすい
3. 外化の機会を得ることで教員の暴走を止めることができる
4. コミュニケーション能力やプレゼンカの涵養に重要

一例



良い授業とは？悪い授業とは？

- 個人ワーク（良い授業悪い授業メモシート）
 - 良い授業と言われて思い浮かぶことを書く
 - 悪い授業と言われて思い浮かぶことを書く
- 意見交換
 1. 3-4人のグループを作る
 2. 良い授業、悪い授業について、各自が説明する
 3. 各グループ最大5つ、良い授業の特徴を提出する

良い授業とは？悪い授業とは？

この授業では、

良い授業 = 学習者が理解できる授業

という考えに立って、説明を行います。

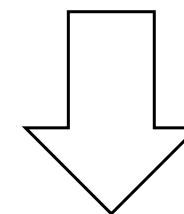
Q. 学習者が理解できる授業には
どんな要素が備わっているのか？

学習者の理解度に影響を与える要素

Feldman (1997)

授業の要素	相関係数
教員の準備と授業の設計	.57
説明の明確さと理解しやすさ	.56
授業目標にそった授業	.49
教員による知的な刺激	.38
高い学習水準への動機付け	.38
質問の促進と他の意見への寛大さ	.36
教員の会いやすさと親切さ	.36
教員の話し方	.35
授業目標と履修要件の明確さ	.35
内容に関する教員の知識	.34
クラスの水準や進捗への理解	.30
教員の熱意	.27
評価における教員の公正さ	.26

授業の設計（デザイン）
の重要性



授業をデザインする方法論
として「**逆向き設計論**」を
学びます。

【超重要】 逆向き設計論

- 通常の授業のデザイン：計画→実践→評価
- 逆向き設計論：先に評価を考える。

1. 求められている**結果**
(到達目標) を明確にする

修了時を
イメージする

2. 承認できる**証拠** (評価方
法) を決定する

指導の前に
評価方法を計
画する

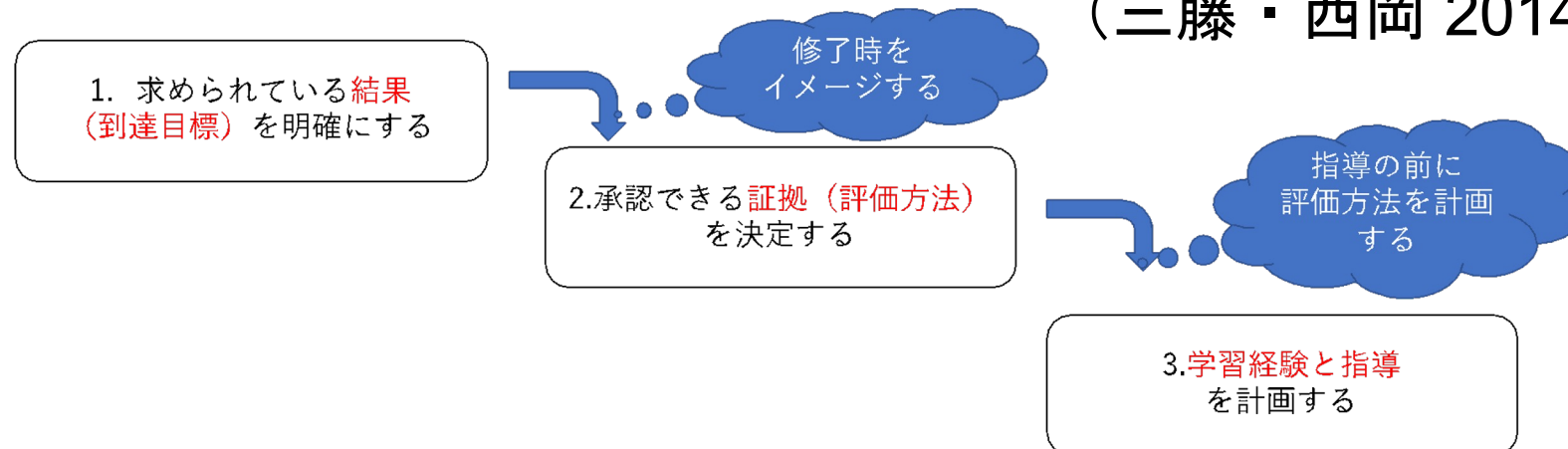
3. **学習経験と指導**
を計画する

ウィギンズ&マクタイ (2005)

「逆向き」と呼ばれる所以

1. 教育によって最終的にもたらされる結果から遡って教育を設計する点
2. 通常は指導が行われた後で考えがちな評価を先に構想する点

(三藤・西岡 2014, p.17)



逆向き設計論で少し考えてみる

- 自分が大学で**担当しそうな科目**を想定してみてください
 - その授業では、**学生に何を達成して欲しい**ですか？
 - その目標の達成度は、**どのようにして評価できそう**ですか？
 - そのためには、15コマの授業の中に**どのような活動を含むべき**ですか？

逆向き設計論の利点（研究とのアナロジー）

1. 「目標の明確化」と「評価方法の決定」により、教員として自分は学生に何を求めているかを自身の中で明確にできる
 - 研究目的を明確化していくことでより洗練された研究計画にできることを実感したことがある人は多いと思います。
 - ふわっとした研究目的だと、研究計画を立てにくいですよ（教授にも怒られますね）。
2. 目標-評価方法-指導計画を一体的に考えることで、「学習者が目標をしっかりと到達できるための授業」をデザインすることができる
 - 研究目的に対応した研究計画が必要で、そうならないと実験の後に困ったりしますよね。

この授業の最終回までに、**逆向き設計論**に従って
良い授業をデザインできるようになりましょう

まとめ：逆向き設計のススメ

1. 良い授業は、「**学習者が理解できる**」授業
2. そのような授業を設計するためには、「**逆向き**に授業をデザインすること」が有効

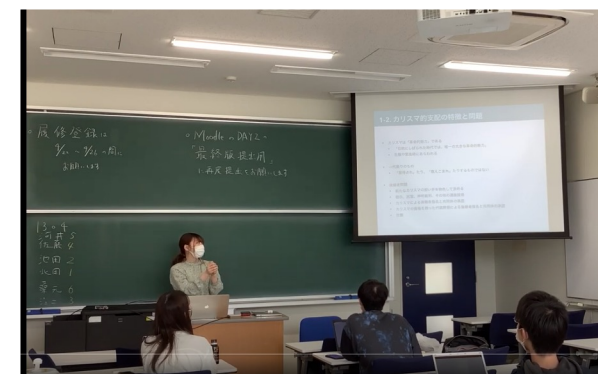
来週に向けての作業

1. 「逆向き設計論ワークシート」を提出する（成績とは無関係）
2. 「第1回振り返り」に回答する
3. マイクロティーチングの準備をする

マイクロティーチングについて

- 次回は、2コマかけて**マイクロティーチング（模擬授業）**を行います。

内容	<ul style="list-style-type: none">• 自分が将来大学で担当しそうな科目を想定• その中で一つの概念を取り扱う程度
形式	<ul style="list-style-type: none">• 一人15分<ul style="list-style-type: none">• 授業の切り出しではなく、15分間のミニサイズの授業• 対象は、一般的大学の1,2年生を想定• スライド提示あるいは板書など形式は自由
事前提出物	提示資料（pptなど）および板書案など Moodleで提出 （締め切りはMoodleに記載。暫定版でok）



（注意事項）

- iPadで**撮影**します。
- 現在の**それぞれの授業スキル**を知り、今後の**授業改善に生かすための**ものです。
- 成績評価とは**無関係**です。
- 授業者以外は、「**その授業に参加している学生**」として授業を聞いてください。 64

3つのNGなマイクロティーチング

1. 15分かけて「授業の流れの説明」をするのはNG
 - その分野の専門知識を何か「教えて」ください
 - 初回のガイダンスもNG
2. TEDのように、「当たり前前のごとを大袈裟に説明する」はNG
 - 啓発の場ではない
3. 学会発表のように「めちゃくちゃ細かいスライド」はNG
 - 相手は初学者を想定するように

参考文献

- 中教審（2012）新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて（答申）
- Entwistle, N. (2009). Teaching for understanding at university: Deep approaches and distinctive ways of thinking. Palgrave Macmillan, UK. N.エントウィッスル（山口栄一訳）(2010) 『学生の理解を重視する大学授業』 玉川大学出版.
- Feldman, K.A. (1997) Identifying Exemplary Teachers and Teaching: Evidence from Student Ratings. In: Smart, J.C. and Perry, R.P., Eds., Effective Teaching in Higher Education: Research and Practice, Agathon Press, New York.
- 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター（編）（2015）ディープ・アクティブラーニング，勁草書房.
- 溝上慎一（2014）『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 東進堂.
- 森朋子（2017）「わかったつもり」を「わかった」へ導く反転授業の学び 森朋子・溝上慎一（編）アクティブラーニング型授業としての反転授業 [理論編] ナカニシヤ出版 pp.19-35.
- 三藤あさみ・西岡加名恵（2014）『パフォーマンス評価にどう取り組むか』 日本標準.
- Wiggins, G., & McTighe, J. (2005). Understanding by design (Expanded 2nd ed.). Alexandria, VA: Association for Supervision and Curriculum Development. G・ウィギンズ, J・マクタイ (西岡加名恵訳) (2012) 『理解をもたらすカリキュラム設計ー「逆向き設計」の理論と方法ー』 日本標準.